

1 基 本	2 ローン
3 設 計	4 仕様 見積り
5 インテリア	6 アフター メンテナンス

知っておきたい、間取りのポイント

住み継ぐ家の間取りを考える



Weekly HABITA 069

住まいづくりの醍醐味は、間取りの打ち合わせにある、といつても過言ではありません。夢が膨らむひとときであり、また家族の絆を深める機会でもあります。

家を建てたときに使い勝手のよい間取りが、10年後、20年後、そしてずっと長くの間、よい間取りであるという保証はありません。なぜならそこに住む人は年をとり、家族構成も、ライフスタイルも変わるからです。

長寿命の住宅が標準化になりつつある現在の住まいづくりにおいて、長い目で考える間取りのコツをご紹介しましょう。

連載

キニナルマドリ
くらしのニュース
住まい文化の葉
住まいは巣まい
住まいのオーダーメード館403
住健住康
庭の話

家族が1つの家に住むとき、将来にわたってずっと便利な間取りというのは実はありません。最初は便利な間取りでも、自分の歳とともに便利な間取りや必要な間取りというのは変わってくるものです。たとえば、子ども部屋やリビングの広さやキッチンの配置、窓の位置や収納に至るまで。

子どもは成長して、親は年老いて家の間取りはずっと変化しないのだとすれば、不便に感じたり使わない部屋が出てきてもおかしくありません。

一戸建ての場合、建てた後に室内にある壁や柱を取り外すと、耐震性や建物の構造上の大きな問題になってしまうことが少なくありません。将来、可変性を高くする間取りには基本になる考え方と、いくつかのポイントがあります。そのヒントは世代を超えて住み継がれている古民家にありました。写真は、北九州にある築150年以上経過した古民家です。下の写真は再生する前の状態です。子どもたちはすでに独立し、家もすっかり歳をとってしまいました。それでも、かつてここに暮らした家族の気持ちは、建物の再生へと向かいました。自分が生まれ育った、思い出と愛着が溢れるこの家を守りたい、残したいと思える「実家」の姿がこの家にはあったからです。

長い歳月を経た民家の木組みはびくともしていました。傷んだ部分を交換・補修し、新しい設備を取り入れ、現代の間取りに生まれ変わりました。その中にあって変わらぬ存在感の構造体。しっかりとした構造体があったからこ



見
本

知っておきたい 間取りのポイント

そ、この家は生まれ変わることができました。上の写真は、再生後です。生い茂っていた庭の草木を整え、凛とした面持ちでたたずむ家の窓には、再びあたたかな灯りがともりました。

古い家の弱点は、基礎(土台)にあるといいます。もし、基礎の構造が現代の家に匹敵するものだったなら、民家はもっと長持ちしたでしょう。普通の工業製品なら、新しい方が最も強度が強く、だんだん落ちていくものですが、木には神秘的なと

ころがあります。ヒノキなどは伐り倒してから200年目が最も強度があり、そこから伐り倒した時の強度に戻るのには1000年かかると言われています。年月を経た木の肌は、人で言えばしみやしわもできますが、そのぶんたくましくなり、人にやすらぎを与えてくれます。基礎さえしっかりしていれば、日本の木造住宅はまだまだ立派に使えるものが多く、昔ながらの間取りは、理にかなった可変性の高い間取りです。古民家の間取りを習って、現代に応用した間取りを考えてみましょう。

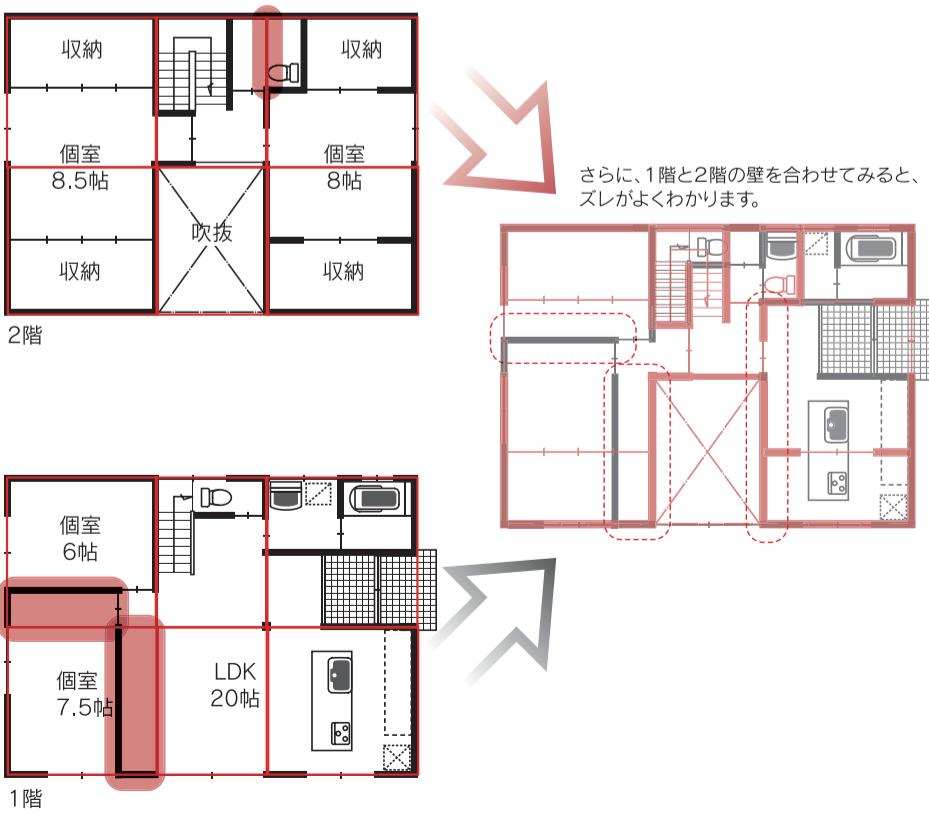
住み継ぐ家の間取りを考える

子ども部屋に可変性を

家の中にある部屋の中でも、子ども部屋というのは最も使われ方が大きく変わります。子どもがいないときは客間として活用し、子どもができる子ども部屋として活用し、子どもが成長し家を出していくと、物置部屋として使うか趣味の部屋として活用することが多いようです。しかし、冷静に考えて実際にどれだけ必要かを考えると、子どもが個室を欲しがるのは小学校高学年から中学生にかけてというのが一般的です。そして高校を卒業すると家を出していくことが多いのです。そう考えると、実際に子どもが部屋を活用する期間というのは、6~10年程度、兄弟の年が離れている場合でも15年程度になります。建てた家に最低30年は住むと考えれば、期間的には5分の1から、長くても半分の期間しか「子ども部屋」としては活用しません。家づくりをする時に、兄弟姉妹一人一人に独立した部屋をつくるというのが本当に良いのでしょうか。

ただ、子どもの多感な時期には独立した部屋が必要な場合もあります。将来どのような形としても使える少し広いフリースペースとして1部屋用意しておくと、将来子どもが部屋を欲しいといったときにも対応することは可能になります。こま切れに区切った空間の壁を取り、将来大きな空間で使うことよりも、初めは大きな空間で考えておくことが大切です。

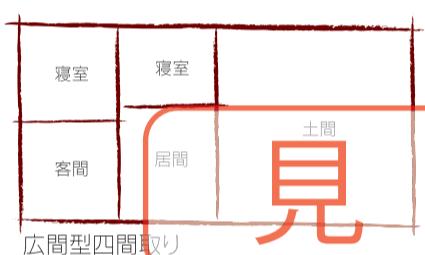
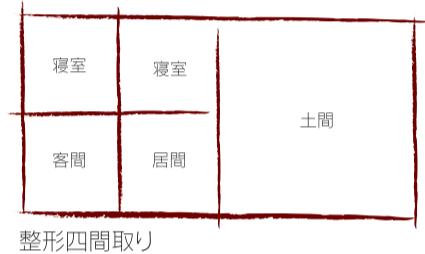
約20帖のLDKのある家、一見使い勝手がよさそうな間取りですが…「間面のつくり」の田の字型がくずれてしまっている箇所がたくさんあります。



古民家から学ぶ間取り

今も現存する古民家は、補修や改修を何度も重ねて住み継がれています。現代の暮らしに合うよう、間取りも変化させて再生されています。古民家が現代の間取りに対応できる秘訣は、家の間取りの考え方そのものにあります。

古くからある日本の民家には、LDKや個室といった考え方で間取りをつくっていません。家を上から見た時、間取り図上で見比べてみるとよくわかります。



民家の間取りは全国に共通する部分がたくさんあります。それは、日本の気候風土の中で、誰もが住みやすい家を知恵を出し合ってつくり上げた結果でしょう。日本の家は元をたどれば、土間に廻炉裏の竪穴式住居です。そこに寝室としての床のある部屋

が生まれ、進化してきました。そのため、土間部分と床部分にわかれているのが特徴です。部屋は2分割、3分割されてさまざまな間取りが生まれましたが、最終的に完成したのが「田の字型」と「広間型」の2つのタイプです。現在も日本各地で見られる古民家で、最も例の多いものです。田の字型は整形四面取りとも呼ばれ、部屋が同じ大きさに4分割された間取りです。同じ広さの部屋は、それぞれ座敷、食堂、寝室と用途によって使い分けられました。時には仕切りを開け放ち、広いスペース

としても使いました。広間型も同じような間取りですが、土間の近くにある部屋のひとつが大きいのが特徴です。ここには廻炉裏が置かれて、家族が集う広間になります。寒い地方独特の間取りです。

古民家の間取りは間面記法

この単純な「田の字型」の間取りにも学ぶ点は大いにあります。古民家は木棟が室内にむき出しの状態だったため、存在感のある柱、天井を見上げると太い梁がありました。現在の家づくりの主流は、構造体を外国産の木材に頼り、最低限の細さにしてビニールクロスで隠してしまいます。このような造りの家だと、構造体は隠してしまうので、どうしてもLDKや個室や使い勝手優先の間取りになりがちです。しかし、そうすると可変性の低い家になってしまいます。構造体も見え



なければどんなに不格好な組み方でも良いので、崩れた骨組みになります。バランスの悪い構造体では、長持ちする家にはなりません。

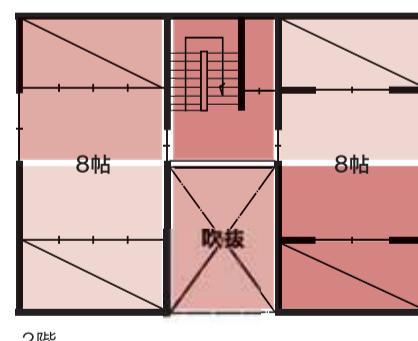
しかし、古民家のように耐久性に優れて可変性の高い間取りでは、構造体がむき出しの「現し」の状態が基本なので、当然、構造美を意識してつくります。単純な区画の組合せを基本にすれば、的確に空間の確保ができ、耐力のバランスにも優れます。このようなつくりを古い日本の住宅では「間面記法」といいます。HABITAでは、この「間面」のつくりを間取りの基本としています。それは、LDKや個室を優先させた間取りでは、世代を超えた家族や生活・技術・様式の変化には対応しきれない可能性があるからです。

自由度が広がる間取り

この「間面のつくり」があるからこそ、古民家が現代の暮らしでも柔軟に対応できるようにリフォーム可能なのです。将来間取りを変える場合にも「間面のつくり」が大切なのですが、もともと日本の家は可変性の高い間取りでできています。たとえば、部屋と部屋が連続するため、必要に応じて襖や障子で空間を大きくしたり、小さくしたりと自在に使いこなせることです。これは、現代の家の一般的なつくりである、部屋と部屋が壁で区切られた個室中心の間取りの家ではできないことです。また、こうして部屋と部屋や、部屋と廊下、または庭を連続させると、実際の面積よりも広々と感じるというメリットもあります。収納や設備機器は現代生活に合わせるとしても、個室ばかりを重視せず、間取りに可変性をもたせたり、空間に連続性を持たせることで、通風・採光も良い家にすることができます。

昔の家の間取りの良いところをしっかりと取り入れれば、長持ちして住み継がれる住まいになるでしょう。間取りを考える時は、ぜひこの「間面のつくり」を考えてみてください。

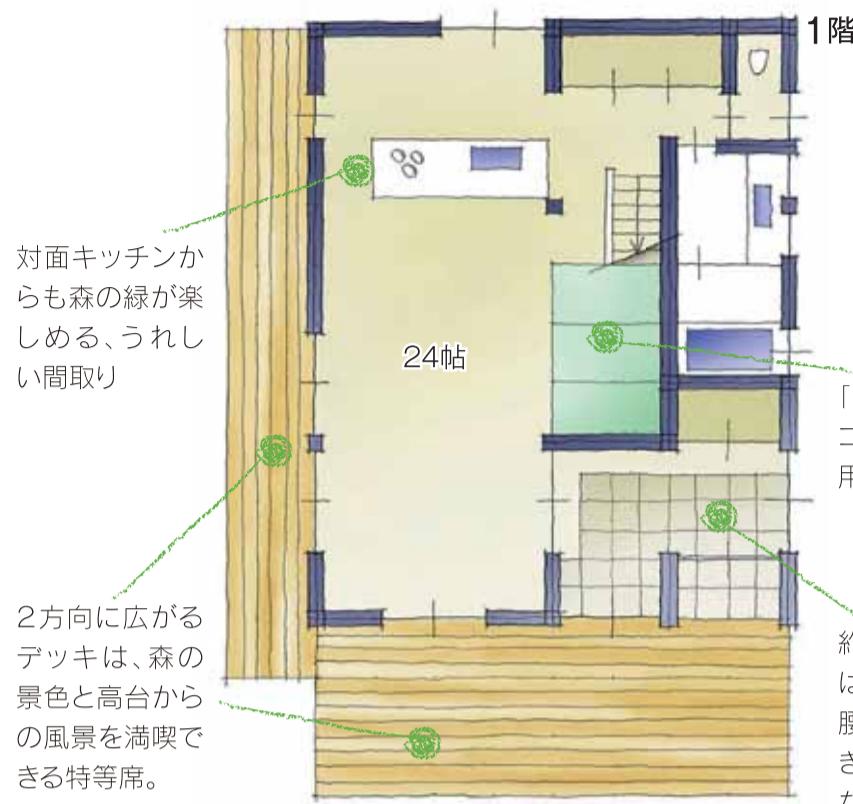
6つのブロックから成り立つ間取り、1階、2階とも間面がキレイに守られています。



キニナルマドリ

森の中の家

model type : 岩瀬牧場



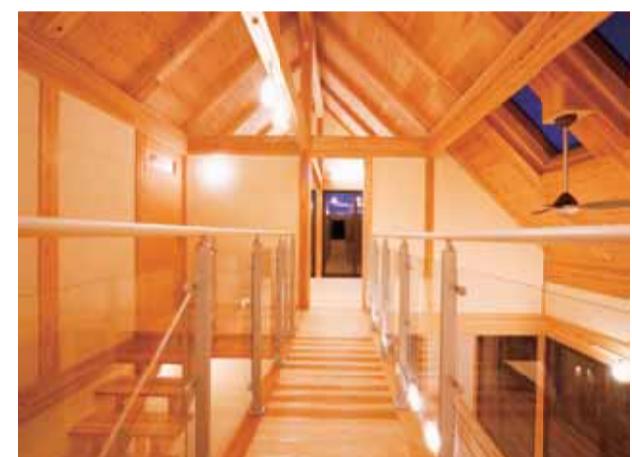
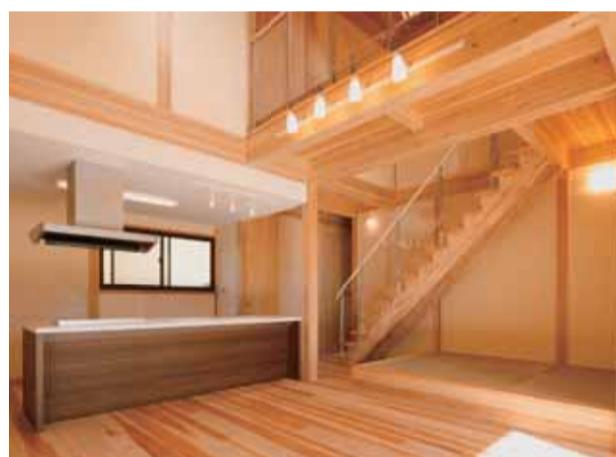
天井の勾配が
心地よい吹き抜け。

「和室」はなくとも、畳
コーナーがあれば活
用頻度はたくさん。

約6帖の玄関スペース
はたっぷりの収納と、
腰をかけてのんびりで
きるベンチもあり贅沢
な広さ。



■建築場所: 神奈川県横須賀市
■敷地面積: 146坪
■建物面積: 1階 36坪 2階 16坪 延52坪
■建設企業: アステック湘南スタイル



見本



「地域型住宅ブランド化事業」で 地域工務店がますます元気に!

「木のいえ整備促進事業」(長期優良住宅普及促進事業)は、地域で活躍している住宅会社が建設する木造の長期優良住宅に対し、産地が証明されている地域材などを使った場合で最大120万円の補助金がなされるというものです。来年度もこの補助金事業はありますが、その内容はさらに地域密着型になりました。

その名も「地域型住宅ブランド化事業」。名称は変わりますが、これまでの「木のいえ整備促進事業」がリニューアルされたもので、基本的な内容は従来どおりですが、大きく違う点があります。これまで、地域の工務店がエントリーすれば良かったのですが、来年度からはグループでの参加となります。グループは、地域の工務店・原木供給者・製材工場・プレカット工場・建材屋・建築士な

どです。その地域の関連する産業と連携して、地域の生産体制を作つて供給していく取り組みを大前提としています。この事業のポイントは、地元の連携プレーです。

地域の家づくりグループから提案を募集し、評価を行います。優れた提案で採択を受けたグループに所属する工務店に補助金が支払われるので、私たちが家を建てる時に「地域型住宅ブランド」の家を選ぶと、最大120万円分の割引が受けられます。

▼長期優良住宅+地産地消の効果

この事業の評価のポイントは、地域連携の仕組みや普及効果の大きさなど、地域に根ざした長期優良住宅に対する工夫や取り組みが中心となります。地域材で長持ちする家をつくり、その地域の気候・風土にあつた住まいを「地域住宅」としてブランド化する。これは、日本の住宅建築の本来の姿ではないでしょうか。国が掲げる地域型住宅の内容は、HABITAが推奨している家づくりそのものです。

▼HABITAの地域住宅

島根県松江市には、まさに地域住宅といえるHABITAがあります。建築はHABITA KENSO(株式会社建装)。

松江城堀川の町並み風景に馴染む外観デザインに加え、100年後の再生を目指す仕組みを考案しています。棟瓦の代わりに採用している棟石や、古石の外溝、土を固めた深草漆喰、外壁の「よろい下見板張り」など、松江地方の伝統的な工法に習い実現されている点は、地域の特徴そのものです。その評価は高く、2010年度のグッドデ

ザインも受賞しています。

このような地域の特徴ある住宅にプラスアルファで共通するルールを組み込めば、地域型住宅になるのです。例えば標準の仕様や維持管理の共通項目などです。

「地域における木造住宅のブランド化」は、地元工務店がますます元気になる重点施策です。



三澤 千代治の 住まい文化の葉

障子

洋風住宅を住まいのモデルとすること、見落としてしまっている日本建築の良さがたくさんある。その最も多くのが障子だ。日本独特の陰影に富んだ文化は、障子から生まれたとさえ言える。

谷崎潤一郎は『陰翳礼讃』のなかで、「大きな伽藍建築の座敷などでは、庭との距離が遠いために、いよいよ光線が薄められて、春夏秋冬、晴れた日も、雲った日も、朝も、昼も、夕も、殆どそのほのじろさに変化がない」そしてそのような部屋にいると、「時間の経過がわからなくなってしまい、知らぬ間に年月が流れ、出てきた時は白髪の老人にはせぬかと云うような、『悠久』に対する一種の怖れを抱いたことはないだろうか」とし、日本座敷の持つ神秘性は障子や砂壁、床の間などの醸し出す「陰翳の魔

法」によるとしている。そうした繊細な感性が張りつめている日本家屋の美を、外国人が理解するのは難しいのかもしれない。「紙と木でできている家に住んでいる」と、昔、日本を初めて訪れた西欧人が非常に驚いたというのも不思議ではない。

美しさだけでなく、機能性、快適性という面からも障子は優れた存在といえる。

たとえば、湿度調節機能がある。障子に張られた和紙は、湿度が高くなると湿気を吸収し、乾燥すると水分を吐き出すので、じめじめした梅雨時などは真価を発揮する。

そのほか、空気ろ過作用もある。空気が入れ替わるとき、外の室内外のほこりをろ過してくれる。障子紙が吸い取ってくれる物質の中には、タル色素や微粒子、ニトロ化合物など発ガン物質もあるという。

年末は家族そろって障子の張り替えをした思い出をお持ちの方も多いはずだ。古くなった障子を勢いよく破っていた少年時代が、つい昨日のように思えるのだが…。

住まいは巢まい

よく違う子は頭がよくなる

「這えは立て、立てば歩めの親心」…わが子の生長するのを待ちかまえている親の気持ちがうかがえる。

親にとって、いくら早く成長することが望ましいとはい、子どもの発育過程にはやはりキチンとした段階というものがあるようだ。

赤ちゃんの時に、十分ハイハイをしなければ、だめだそうだ。這うことにはそれなりに意味があるからだ。

乳児は這う時に、頭を後ろに向けて反らせるようにして一所懸命首を上げる。それが頭部の発達に欠かすことのできない運動になる。よく這う乳児は頭がよくなる、というわけである。這うという行為は、想像以上に人間の脳に重要な影響を与えていているようだ。

4、5歳になつても走るとよく転ぶ子どもがいる。それも顔と肩からつんのめるように転ぶ。反射的に手を出すことで、顔や頭を直接床にぶつけることが避けられる。

これができるので、コンクリートに頭を直接ぶつけて大ケガすることもある。その原因の一つに乳児期のハイハイが不十分だということが挙げられる。

部屋が狭いためちょっと違うと家具とか壁に突き当たつて立ち上がりてしまうので、母親が危ないからと、すぐにベビーサークルに入れてしまうことも誘因になつていて。

住まいの間取りの中で、サキュレーションプランというがある。輪状の回廊になっているから、子どもは好きなだけ家中をぐるぐると這いまわつたり、飛びはねてまわれるようになっている。いずれにしろ、赤ん坊がハイハイできる安全で広いスペース、ハイハイしたくなるような清潔で感触のよい床材などに心配りしてほしいものだ。



住まいの オーダーメード館

室内取付け型の防犯格子

窓などに取付けて防犯しながら換気・通風ができる、室内取付型の防犯格子です。圧倒的な威圧感でドロボウの「やる気」を失わせる事を狙いとし、窓を開けていても侵入を防げます。

格子は可動式で収納が出来るため、人の出入りする箇所にも使えます。

外付けのシャッターや面格子が取り付けできない家屋や、上種・銀行の出入口には、情報保護のために、事務所・病院等では間仕切りの代わりとして、様々な場面で使用されています。

「窓を開けていたい」が「防犯はしっかりしておきたい」

「不在時の空き巣防止と同時に、昼・夜問わず室時は窓を開けておきたいが、最近物騒だから心配でできない」

「就寝中も自然の風を取り入れたい」

というご要望をかなえます。これで心配なく換気・通風ができるのです。

価格:お問い合わせ下さい
403掲載商品No.G-0274_002



住まいのオーダーメード館 403
東京都新宿区新宿1-2-1-1F
<http://order403.com/>

403

検索

住 健 住 康

じゅうけんじゅうこう

太陽が栄養剤

部屋に太陽熱を採り入れるのは、住まいづくりの重要なポイントであることは言うまでもない。そこで、日当たりの良いのは何といつても南向きの部屋である。その次が東側の部屋、西側の部屋ということになる。

南向きの部屋は、夏涼しく、冬暖かいということになる。真夏の太陽は、真上にくるので「ひさし」を深くしておけば、暑い太陽光が家の中に差しこまないことになる。冬の太陽は低くなるので、家の中にはあたたかい日が差しこむわけである。

夏の太陽は、約77.5度の角度で入るので窓の高さに対し、約2割の長さの「ひさし」をつけておけば直射日光を避けられることになる。



太陽の光を浴びて育った子どもは、骨の発育がよく、背も高く伸び、しかも丈夫なことも知られている。反対に、日陰で育つと最悪の場合は、クル病という背骨がまがる病気になる。

日光がもたらす身体への影響は、赤血球・白血球を増やす、体内にビタミンDをつくる、新陳代謝を良くする、強い殺菌力がある。

しかし、過度の直射日光は人体に害をもたらし、過度の紫外線はシミやソバガス、日焼けなど、肌のトラブルを引き起こす。皮膚ガンの原因になるとさえ言われている。

採光計画の決め手は、太陽光線のコントロール。有害な紫外線をカットするセーフティ・シェードガラスなどを巧みに利用して、太陽の光を賢く取り入れたいものである。



庭仕事の愉しみ

ある主婦は家の建て替えと一緒に、念願だった花づくりを始めた。枯山水の庭と花を育てて楽しむスペースをつくり、純和風庭園と洋風のガーデニングを両方楽しんでいるといった様子だ。会社努めをしながらなので、花の世話は早朝と夕方になる。しかし、朝出勤前の1時間、花に向かつただけでもその日一日の充実感が違うという。健康な限り、花づくりをしてみたいというのが、この人の夢である。庭づくりが生き甲斐にまでなっているというケースだろう。

ヘルマン・ヘッセの『庭仕事の愉しみ』という本が出版されてベストセラーになった。

ヘッセは執筆に費やす以外の時間は自分の庭で過ごしたことだが、ヘッセによれ

ば、「土と植物を相手にする仕事は、瞑想するのと同じように、魂を解放させてくれるのです」ということになる。

実際に、植物を育てることで、精神的に病んでいる人が癒され、立ち直るきっかけをつかむこともある。

都会の人々が土の感覚を忘れてしまってすでに久しい。土の上を歩くことすらほとんどなくなつた。そんな土離れしてしまった人間が土と格闘し、自然と格闘することで、人間としての根元的な何かを呼び覚ましているにちがいない。

